

令和元年（2019年）夏の平和展

「紙芝居・戦時資料と健軍飛行場」展によせて

本会「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」は、今年で結成14年目をむかえます。

これまで県内各地の戦争遺跡の調査・研究や保存活動を行い、合わせて県内航空遺産をはじめ戦時資料（絵本・玩具・空襲資料等）の調査・研究・検証活動を通して、「戦争の記憶を語り継ぎ、平和の大切さを学ぶ活動」を進めてきました。

令和元年（2019年）夏の平和展は、熊本市立図書館様と共催で、令和元年7月8日～8月31日までの期間、戸島町古閑宏二郎様宅隣接地で発見された掩体壕資料、健軍飛行場に関する墜落「飛龍」機資料等、宇城市在住の上村真理子様の紙芝居・戦時資料、さらにはノモンハン事件に関わられた井置家に伝わる出征日章旗、荒尾市在住の松山強氏の戦時資料・軍装品等のおよそ70点を紹介します。

この展示会は、平成30年2月熊本市東区戸島町で「旧陸軍健軍飛行場の木製覆屋掩体壕の発見」が契機となりました。戦後飛行場跡地には、間もなく県営熊本飛行場が開設され、移転後は熊本日本赤十字病院をはじめ、熊本県立大学等が設置され、市街地化がさらに急速に進みました。

いまこの地にあった健軍飛行場は、人々の記憶から消えかけています。健軍飛行場の資料や戦時資料・軍装品を通して、「戦争の実相を知り、平和の大切さ」を感じとり、戦争の実相を知っていただく機会となるよう祈っています。



展示の戦時紙芝居『動物大会』



陸軍健軍飛行場に敗戦後遺棄された
「陸軍四式重爆撃機 飛龍」

令和元年7月9日



くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

代表 高谷和生